

【2019年3月9日～2019年3月15日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は対米ドル、対円ともに概ね横ばいで推移しました。また、トルコの2年国債金利も概ね横ばいでした。

先週発表された、2018年10-12月期のGDP(国内総生産)が、前期比ベースで2四半期連続でのマイナスとなり、トルコ経済はリセッション(景気後退)に陥りました。リセッションに陥った要因としては、対米関係の悪化からトルコ・リラが急落したことを受けて、トルコ中央銀行が金利を大幅に引き上げたことにより、国内需要と工業生産が影響を受けたことなどが挙げられます。また、12月の失業率や1月の鉱工業生産も悪化しており、足元のトルコ経済の低迷を表しています。

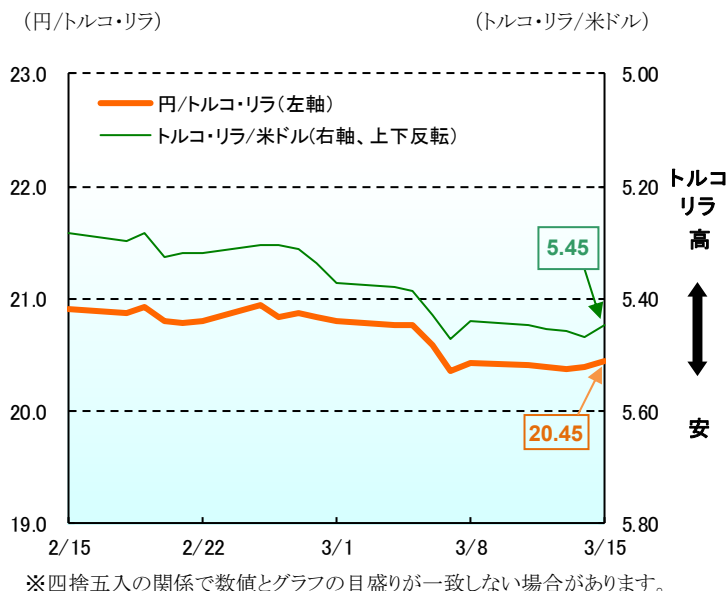
一方、市場ではトルコ経済のリセッション入りは事前に予想されていたため、金融市場への影響は限定的なものになりました。

【2】今週の見通し

今週は米国にてFOMC(米国連邦公開市場委員会)が開催されることから、その内容に注目が集まりそうです。FOMCにて、よりハト派な姿勢が示されれば、トルコ・リラの追い風になると考えます。

一方、3月末には統一地方選挙を控えていることから、政治的なヘッドラインにも引き続き注意が必要と考えます。足元発表された、中央政府財政収支は選挙対策の財政緩和の影響を受けて悪化しています。仮に与党の選挙結果が振るわなければ、追加経済対策などでさらなる財政の悪化につながる可能性があることから、注意が必要と考えます。

【トルコ・リラ 為替推移】(2019年2月15日～2019年3月15日)



【トルコ 金利推移】 (2019年2月15日～2019年3月15日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <https://www.daiwa-am.co.jp/>